

人々の健康のみならず、世界全体の社会、経済、安全保障に甚大な影響を与えた新型コロナのパンデミックの教訓が忘れ去られる前に、将来のパンデミックをより良く予防・備え・対応(PPR)できるよう、国際社会の体制を強化し(①グローバルヘルス・アーキテクチャー(GHA))、全ての人の健康を確保し(②ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)、イノベーションの力(③ヘルス・イノベーション)を最大限活用する。そのため、国際保健のリーダーとして、G7の一致した決意と行動を示し、世界全体に貢献していく。



1 公衆衛生危機対応のためのグローバルヘルス・アーキテクチャーの構築・強化

- 本年9月の国連PPRハイレベル会合等を見据え、WHOの主導的役割を確認しつつ、**より協調的で持続的な首脳級ガバナンス**に向けた政治的モメンタムを更に高めていくことにコミット。
- 財務・保健大臣合同会合で承認された「財保連携強化及びPPRファイナンスの強化に関するG7共通理解」の下、財保連携強化やパンデミック基金、サージファイナンス等の資金面の取組を一層推進。
- 公平性を指針とし、いわゆるパンデミック条約作成及び国際保健規則改正の交渉において全ての関係者と共に貢献することを表明。
- 健康危機管理部隊(GHEC)の検討を含む十分かつ質の高い保健医療人材の強化・維持の重要性を確認。

2 より強靱、より公平、より持続可能なユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成への貢献

- 新型コロナ対応により後退した従来からの保健課題への対応の推進を確認。
 - 感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア、顧みられない熱帯病(NTDs)、ポリオ等)、非感染性疾患等(メンタルヘルス症状、栄養、WASH等)、ライフステージに応じた保健課題(母子保健、SRHR、健康な高齢化等)、薬剤耐性(AMR)など
- 国際保健への貢献、国内資金動員拡充及び国際保健への民間投資拡大のためサミットで資金貢献を表明。
 - **G7として官民合わせた480億ドル以上の資金貢献**(日本は、政府による**グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)への2億ドルのプレッジ**を含む2022年から25年までの官民合わせた**75億ドル規模の貢献**)
- 国際保健へのインパクト投資を促進するイニシアティブ「グローバルヘルスのためのトリプルI(Triple I for Global Health)」を広島サミットで承認。
- G7のUHC達成に向けた具体的行動を長崎保健大臣会合で「G7 UHCグローバルプラン(G7 Global Plan for UHC Action Agenda)」として発出し、広島サミットで承認。財政、知見の管理、人材を含むUHCに関する世界的なハブ機能の重要性に留意することで一致。

3 様々な健康課題に対応するためのヘルス・イノベーションの促進

- パンデミックやAMR等への対応のための研究開発(R&D)促進など、ヘルス・イノベーションを一層推進。AMRに関し、来年の国連AMRハイレベル会合も見据え、R&Dへの市場インセンティブ導入の必要性を確認。
- サミットで「**感染症危機対応医薬品等(MCM)への公平なアクセスのためのG7広島ビジョン**」を発表。研究開発や製造からデリバリーまでバリューチェーン全体をカバーするエンド・ツー・エンドなエコシステムに係る原則を打ち出し、「**MCMに関するデリバリー・パートナーシップ(MCDP)**」を立ち上げ。

主な成果

(赤字は広島サミットで初出)

首脳級ガバナンスに向けた政治的モメンタムの強化

財保連携強化及びPPRファイナンスの強化に関するG7共通理解

480億ドル以上の官民資金貢献
(日本の貢献は政府によるGHITへの2億ドルのプレッジを含む75億ドル規模)

G7 UHCグローバルプラン

グローバルヘルスのためのトリプルI

MCMへの公平なアクセスのためのG7広島ビジョン

MCMに関するデリバリー・パートナーシップ(MCDP)